

伊達

市議会だまり

2007.11.8
vol.

8

●議会広報委員会



目次

- 9月定例会審議議案……2～4
- 一般質問……………5～11
- みなさんからの請願・陳情…12

10月28日「第28回三浦弥平杯梁川ロードレース大会」が開催され、男女30部門に県内外から1161名が参加しました。今回日本陸連公認コースとして新設されたハーフの部（約21km）には、三浦氏の母校・早稲田大学競争部から齊藤太一さん（右）と鷹塚泰さんが招待選手として参加しました。

9月定例会

平成19年第3回定例会は、9月4日に招集され21日まで18日間の日程で開催されました。市長から提出された案件は、条例制定1件、条例の一部を改正する条例1件、廃止条例1件、平成19年度一般会計及び特別会計補正予算24件、人事案件10件、その他2件、平成18年度一般会計、特別会計歳入歳出決算及び企業会計決算の認定27件でした。これらの案件は、概ね所管の常任委員会、決算審査特別委員会に付託して審査の後、本会議で採決した結果、いずれも原案のとおり可決しました。一般質問では、13人の議員が質問に立ち市当局の考えを質しました。

条 例

小学生入院医療費の助成に関する条例の制定

小学生の入院医療費を助成することにより、保護者の負担を軽減し、小学生の健全な育成と福祉の増進に寄与するため定めました。

平成19年10月診療分の入院医療費から、助成されます。

特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正

市公立学校施設等検討委員会設置規則に基づき設置している、学校施設等検討委員会委員について、非常勤特別職としての身分を明確にし、報酬を支給し、あわせて条例中の条文の整理をするため、条例の一部を改正しました。

ひまわり園条例の廃止

福島県地域療育センター支援事業実施要綱が廃止されたことに伴い、当該施設の設定形態が変更となったため廃止しました。

補正予算

一般会計補正予算（第2号）

歳入歳出それぞれ2億5424万1千円を追加し、歳入歳出予算の総額を259億3457万1千円としました。歳出の主なものは、保原小学校建設基本設計等6735万6千円、霊山児童館建設実施設計等6338万3千円、災害復旧事業3849万3千円、住民参加型市場公募債経費144万5千円、子育て相

としました。平成18年度退職者医療療養給付費交付金の精算による返還金確定に伴う補正です。

介護保険特別会計補正予算（第2号）

歳入歳出それぞれ9084万5千円を追加し、歳入歳出予算の総額を43億2189万6千円としました。

歳入の主なものは、介護給付費準備基金積立金に7000万円、介護サービス確定に伴う国庫負担金返還金等に2105万4千円です。

歳入の主なものは、調整交付金4267万5千円、支払基金交付金1535万8千円、繰越金7478万円です。

梁川簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）

歳入歳出それぞれ8万2千円を追加し、歳入歳出予算の総額を1億7336万5千円としました。平成18年度決算における繰越金の確定、及び測量設計等委託料の増による補正です。

月館簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）

歳入歳出それぞれ556万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額を9695万7千円としました。

歳入の主なものは、ライフ

ライン機能強化緊急時用連絡管設計委託料525万円で、これを賄う歳入の主なもの、簡易水道負担金210万円、前年度繰越金346万6千円です。

公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）

歳入歳出それぞれ54万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額を16億7451万9千円としました。平成18年度決算における繰越金の確定、及び県補助金の確定による補正です。

歳出の主なもの、公共下水道管理費44万4千円で、歳入の主なものは、下水道事業県補助金255万円、繰越金6007万1千円です。

栗野地区農業集落排水処理事業特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ568万9千円を追加し、歳入歳出予算の総額を2098万円としました。平成18年度決算における繰越金の確定による補正です。

歳出の主なものは、財政調整基金積立金491万2千円、電算業務委託料60万円で、歳入の主なものは、繰越金568万9千円です。

梁川工業団地造成事業特別会計補正予算（第2号）

歳入歳出それぞれ38万5千円を追加し、歳入歳出予算の総額を1億7743万3千円としました。平成18年度決算における繰越金の確定による補正です。

霊山工業団地分譲特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ9万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額を28万5千円としました。平成18年度決算における繰越金の確定による補正です。

月館宅地造成事業特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ94万8千円を追加し、歳入歳出予算の総額を1268万6千円としました。平成18年度決算における繰越金の確定による補正です。

つぎだて花工房特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ738万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額を1億2708万6千円としました。

歳出の主なものは、交流施設管理事業に243万4千円、花工房事業費に88万2千円で、それを賄う歳入は、繰越金738万6千円です。

梁川財産区特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ2万5千円を追加し、歳入歳出予算の総額を64万1千円としました。

堰本財産区特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ2万4千円を追加し、歳入歳出予算の総額を14万2千円としました。

白根財産区特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ38万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額を140万7千円としました。

山舟生財産区特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ4万9千円を追加し、歳入歳出予算の総額を101万4千円としました。

富野財産区特別会計補正予算（第2号）

歳入歳出それぞれ5万2千円を追加し、歳入歳出予算の総額を187万1千円としました。

五十沢財産区特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ5万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額を95万2千円としました。

富成財産区特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ5万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額を95万2千円としました。

歳入歳出それぞれ33万8千円を追加し、歳入歳出予算の総額を168万2千円としました。

柱沢財産区特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出予算の総額に変更はなく、歳入区分の入替をしました。

上保原財産区特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ53万9千円を追加し、歳入歳出予算の総額を92万1千円としました。

金原田財産区特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ28万9千円を追加し、歳入歳出予算の総額を182万9千円としました。

掛田財産区特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ51万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額を88万3千円としました。

小国財産区特別会計補正予算（第2号）

歳入歳出それぞれ20万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額を94万1千円としました。

以上、いずれの財産区も、平成18年度決算における繰越金の確定により、財源調整及び歳入歳出予算を補正しました。

水道事業会計補正予算（第2号）

収益的支出の既決予定額に補正予定額36万8千円を追加し、収益的支出を17億6219万3千円とし、資本的支出の既決予定額に補正予定額210万円を追加し、資本的支出を10億1349万3千円としました。

決算

平成18年度一般会計歳入歳出決算ほか26件の決算認定

平成18年度各会計決算が認定に付され、決算審査特別委員会を設け審査しました。その結果、27件のいずれの会計も認定するものとなりました。（決算の概要は「だて市政だより10月号」をご覧ください。）

人事案件

梁川財産区管理会委員の選任同意

六戸 秀男氏（再任）
齋田 公重氏（新任）
渡邊 幸雄氏（新任）
秋葉 哲郎氏（再任）
渡邊 昭男氏（新任）

安藤 要二氏（再任）
山際 一男氏（新任）

**堰本財産区管理会委員の
選任同意**

鈴木 幹夫氏（再任）
山下金之助氏（新任）
大竹 哲朗氏（新任）
渡邊 清藏氏（新任）
古山 賢一氏（新任）
幕田 孝一氏（再任）
佐藤 隆雄氏（新任）

**白根財産区管理会委員の
選任同意**

三浦 郁夫氏（再任）
三浦 彰氏（再任）
齋藤 和雄氏（再任）
齋藤 初吉氏（新任）
齋藤 春治氏（新任）
引地喜久雄氏（再任）
霜山 六夫氏（新任）

**山舟生財産区管理会委員
の選任同意**

幕田 繁氏（再任）
齋藤 福幸氏（新任）
八巻 高男氏（再任）
八巻 陽吉氏（再任）
齋藤 亮氏（新任）
八巻 昇氏（新任）
佐藤 行博氏（新任）

**富野財産区管理会委員の
選任同意**

佐藤 照雄氏（新任）
遠藤 貞夫氏（新任）
氏家 義昭氏（再任）
穴戸 久徳氏（新任）

三浦 正喜氏（新任）
三浦 幸二氏（新任）
佐々木友治氏（新任）

**五十沢財産区管理会委員
の選任同意**

曳地 東弘氏（新任）
遠藤 定良氏（新任）
岡崎 和信氏（再任）
佐藤 一志氏（再任）
岡崎 光氏（再任）
引地 慶弘氏（新任）
岡崎 良孝氏（再任）

**富成財産区管理会委員の
選任同意**

菅野 温氏（再任）
佐藤 和昭氏（新任）
菅野 計氏（新任）
菅野 欣一氏（再任）
井上 賢治氏（新任）
佐久間 豊氏（再任）
佐藤 金一氏（新任）

**柱沢財産区管理会委員の
選任同意**

菅野 賢一氏（再任）
菅野 信治氏（再任）
佐藤三代治氏（新任）
松浦 清氏（新任）
石神 正男氏（新任）
渡邊 一男氏（新任）
柳沼 正治氏（新任）

**上保原財産区管理会委員
の選任同意**

石田 耕起氏（再任）
佐藤 春三氏（再任）
松本 昭榮氏（再任）

佐藤 幸一氏（再任）
樋口 孝家氏（再任）
水口 英次氏（再任）
佐藤 新治氏（新任）

**金原田財産区管理会委員
の選任同意**

佐藤 隆士氏（再任）
秋葉 清彦氏（新任）
菅野 秀雄氏（新任）
長沢 一四氏（再任）
長澤 勝利氏（再任）
本間 將之氏（新任）
大橋 正幸氏（再任）

その他

市道路線の廃止

旧町の道路台帳を同一の基準に統一し、新たに道路台帳を整備するため、3856全路線を廃止しました。

市道路線の認定

廃止した路線について、同一の基準により路線番号、路線名及び合併による行政界の接続道路の見直し等を行い、新たに3830路線について認定しました。あわせて河川改修事業等に伴い3路線を認定しました。

意見書

9月定例会で可決した次の

意見書を政府関係機関、国会等に送りました。

**道路財源の確保に関する
意見書**

子どもの医療費助成制度の確立・拡充を求める意見書

10月臨時会

第4回臨時会は、10月9日に招集され、1件の議案を原案どおり可決しました。

補正予算

一般会計補正予算（第3号）

歳入歳出それぞれ3億477万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額を262億3934万4千円としました。
歳出の主なものは、農林水産施設災害復旧費に1億3516万3千円、土木施設災害復旧費に1億3176万1千円、農地災害復旧事業費に1179万、宅地関連災害復旧事業費に1560万円です。
これを賄う歳入は、国庫支出金8652万5千円、市債8130万円で、その他不足する財源は財政調整基金繰入金1億3694万8千円を充当しました。

特別委員会

平成18年度決算審査特別委員会（27名）

◎安田 豊一 ○松本 善平
議長、議会選出監査委員を除く議員全員

〔設置年月日〕

平成19年9月12日

9月定例会に提案された議案の決算認定27件について審査するために設置されました。
〔審査日〕

9月13日・14日・18日・19日

嘱託職員の採用等調査特別委員会（12名）

◎八巻 善一 ○清野 公治

佐々木 彰 大橋 良一
佐藤 実 中村 正明
高橋 一由 熊田 昭次
佐々木英章 半澤 隆
齋藤 剛一 佐藤 勲

〔設置年月日〕

平成19年9月12日

本年4月に他の臨時職員賃金とはかけ離れた高額賃金の嘱託職員が採用された件について、事務検査を要するものとして決議し、設置されています。

（◎委員長 ○副委員長）

一般質問

一般質問議員と主な項目

9月10日登壇

- 松本 善平 議員
 - ・健康な高齢者社会づくりについて
 - ・市立梁川病院の今後について
- 安藤 喜昭 議員
 - ・市民懇談会について
 - ・温暖化対策の推進に関する市の対応について
 - ・阿武隈急行線維持対策について
- 原田 建夫 議員
 - ・熊の出没情報及び対策について
 - ・防災対策（地震対策）について
- 佐藤 実 議員
 - ・伊達市の学校給食の現状と今後について
- 菅野 富夫 議員
 - ・保原学校給食センター改築について
 - ・窓口サービスの充実について
- 大橋 庄信 議員
 - ・危機管理について

9月11日登壇

- 佐々木 彰 議員
 - ・伊達市の廃棄物処理への取り組みについて
- 堀江 泰幹 議員
 - ・参与会議について
- 菅野與志昭 議員
 - ・産業の振興について
 - ・市場化テストについて
 - ・職員の適正配置について
- 中村 正明 議員
 - ・伊達市財政厳しい中での住民サービスについて
- 高橋 一由 議員
 - ・職員不祥事件について
 - ・市長の政治姿勢について
 - ・財政と来年度予算編成方針等について
- 熊田 昭次 議員
 - ・壊滅危機の桃せん孔細菌病対策と担い手振興対策について
 - ・身近な生活道路に対する請願、陳情書の今後の対応について

9月12日登壇

- 佐々木英章 議員
 - ・新年度予算編成について
 - ・市職員の人事管理及び運用について

市立梁川病院の 今後の運営について

松本 善平 議員

Q 市立梁川病院は介護療養病床型で、介護認定5の重症で居宅介護が困難な方が入院しています。国の方針では平成23年末で介護療養型病床を廃止の方針です。一般会計より9500万円を繰り入れても経営が厳しい状態です、全国的にも自治体病院は赤字の病院が多いようです。梁川病院は歴史の中で、地

域住民に対し保健、医療、福祉に貢献してきました。これまでも血の滲むような改革を重ねて来たのですが、今後梁川病院をどのような位置づけをし、どのような方向づけをされるか伺います。

A 市立梁川病院の経営基盤である介護療養型病床につきましては、国の医

療制度改革の一環として、平成23年度末をもって廃止するという決定があったところですが大変重要な問題であると受けとめています。お質しの市立梁川病院の今後のあり方というものを模索するために、今年2月に「市立梁川病院経営検討委員会」を設置しております。病院経営の現状と、国・県の転換推進の動向等、情報の収集に努め、より広い視点に立ち、考えられる選択肢について調査し、今後の方向性を慎重に検討してまいりたいというふうに考えているところですので、ご理解を賜りたいと思います。



市立梁川病院

阿武隈急行線の 維持対策について

安藤 喜昭 議員



近隣市町への通勤、通学の足として、また地域発展の面からも重要な交通機関として大きな役割を担っている阿武隈急行線の維持対

策について次の点について伺います。

①財政支援について伊達市合併により各補助、分担割合に変化があったのか。



全線開業から20年を迎える阿武隈急行

②平成25年度まで実施予定の「緊急保全整備事業補助」について今後の見通しと総額の試算はどの程度になるか。
③平成20年は全線開業から20年の大きな節目の年になるが、全市をあげて記念事業等で地域活性化につなげればと思うが計画はどうか。



①合併に伴う伊達市の負担金は、経過措置として、平成18年度は2町分の160万円、平成19年度は120万円、平成20年度以降が83万円とすることで関係市町が合意しています。

②阿武隈急行が実施する緊急保全整備事業に対する財政支援ですが、平成17年度から21年度を計画期間とする経営健全化計画における施設改修等の総事業費は14億円余りが見込まれていて、伊達市の負担はおおよそ1億円程度になるものと考えています。

③来年の全線開業20年目について、沿線開発推進協議会では、会社側と協議、調整を図り、記念式典や各種イベント等、15周年時と同程度の記念事業を実施してマイルール意識の高揚を図り、利用者の確保に努めるべく準備を進めているところです。また、来

年度は、仙台、宮城県を中心に繰り広げられる「ステイナード」キャンペーンに参加を

して、阿武隈急行沿線の魅力を全国に発信していきたいと考えています。

防災対策について



新潟県中越沖地震を

始め、大規模な地震の発生が懸念されています。また、近年台風や大雨などの自然災害による日常生活への影響も大きな話題となっています。本市としても緊急時の対策については急を要するものと思われま

す。そこで次の5点について伺います。

①災害時の組織体制はどうなっているのか。

②水道等のライフラインの復旧対策はどうなっているのか。

③安全な避難場所の確保はどうなっているのか。

④食料や飲料水などの備蓄状況はどうなっているのか。

⑤ボランティアや医療支援に対する受け入れ体制はどうなっているのか。



①震度4以上の地震が発生した場合を想定

原田 建夫 議員

し職員の参集基準を定め、応急対策に当たることになっています。被害の状況により、消防団、自主防災組織、女性防火クラブさらには県、自衛隊などと連携して災害対策に当たります。

②災害発生時初期には、上下水道施設の被害状況、断水地域や道路被害状況について関係部局を中心とした状況把握に努め、被害の状況に応じて、応援協定関係業者と連携をしながら早期にライフラインの確保ができるよう応急復旧を図ることにしています。

③避難場所は、93カ所を指定しています。市管理の体育館や集会所のほか、昭和56年以前に建築された施設もあるので、指定施設の見直しや代替施設の確保も含め、検討していきたいと考えています。

④災害備蓄は、現在、各総

合支所単位に、非常食、応急飲料水を中心に一定程度の備蓄品を確保しています。備蓄内容は、現在、非常食約3100食分、応急飲料水5000mlのペットボトルで5000本、幼児用おむつ51枚入り55袋、ウエットタオル20枚入りのものが1450袋などです。

⑤ 地域防災計画により受け

同じ給食サービスの提供はできないのか

佐藤 実 議員

Q 学校給食は食を通じて子供たちの健康の保持・増進や食習慣の形成及び人間形成など、学校における重要な教育活動としての役割を果たし、まさに健康教育であります。伊達市の現状を見ると一方では環境ホルモン対策が講じられた強化磁器食器での給食の提供、一方では軽くて割れにくい耐久性プラスチック製食器と先割れスプーンでの給食。市内の子ども達と同じ給食サービスを受けることのできない現状について市は

入れ対応を整備することとしていますが、現在、明確にできていないので、今後、市社会福祉協議会、日本赤十字社福島県支部等の関係機関と協議をしながら、受け入れの窓口、活動のコーディネート体制、活動拠点の確保について定めていきたいと考えています。

どう考え、今後どのように対処しながら給食事業に取り組んでいくのか所見を伺います。

A 3箇所の給食センターは、それぞれ設置された年度や施設構造、規模、運営方式、使用している食器、また、食材の地産地消への対応、給食回数、給食費、給食の方式等に相違がありますが、児童生徒に安心・安全でおいしい給食を提供するために、各施設とも日々努力をしています。また、保原給食センター

において、強化磁器製の食器に変更するには、約40000食分の食器、はし、洗浄機、消毒保管庫と、これらを収納するスペースの増設が必要となり、概算で約3800万円程度の予算が必要になります。が、児童生徒への安全性や環境ホルモンへの配慮、そして食べる楽しさを知ってもらうためにも予算等の確保に努力をしていきたいと考えています。



保原学校給食センター

保原学校給食センター

改築について

菅野 富夫 議員

Q 保原給食センターは衛生管理の観点から改善が望まれており協議をしていると市で話されています。保原のセンターは伊達・梁川

と違いウエット方式で、下処理・調理等の部屋が別でなく衛生管理の上で苦労しています。子どもたちが使うトレイ等食器は伊達や梁川のセンターに比べて格差が多く改善が要望されています。改築するには、自校方式・伊達方式・今の方式といういろいろ考えられます。安全・安心な給食、食育や地産地消なども大切です。いつ頃を目標に、どのような方式で改築していく考えなのか伺います。

A 改築の方針は、学校教育法に規定されている義務教育施設の設置者としての責務を踏まえつつ、地産地消を推進しながら、児童生徒に安心で安全な給食を提供できる施設であること。さらに、児童生徒の減少傾向を踏まえ、高齢者向けの配食サービス等を含めたコンパクトで効率的な施設であること。施設の運営形態としてはPFI方式等を模索していく。そし

て、地元の民間活力を導入して運営経費をできるだけ削減していく施設というような観点で今後検討していきたいと

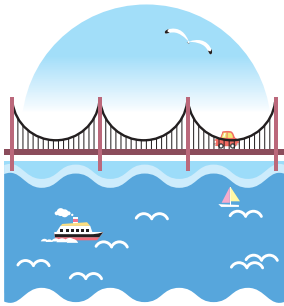
危機管理について

大橋 庄信 議員

ここにあるのか。また、市の橋の点検状況と国・県の橋の点検状況について伺います。



アメリカで起きた橋の崩落事故は築年数40年でした。日本の橋の寿命は50年から70年とされていますが、あと18年ぐらいたつと約半数が50年以上の年数になると言われていきます。道路も橋もトンネルも決して落ちたり崩れたりしないものと思つて通行しています。交流する人口も行動範囲が広がっています。市内の国・県・市道で、重量制限の表示のある橋はど



市内における国・県・市が管理する橋梁総数は743橋あり、重量制限表示のある橋は県管理の橋梁で

いずれも国道349号で、阿武隈川にかかる梁川橋と滝沢川にかかる滝沢橋の2橋です。また、市管理橋では霊山地区で、小国川にかかる荒屋敷橋、大手橋、大石川にかかる橋本橋の3橋です。点検については、定期的なものとして5年に1回実施しています。さらに、地震後等の状況により点検も行っています。これらの点検は、マニュアルに従っているところ、国・県についても、市同様5年に1回実施していると聞いています。

廃棄物処理について

佐々木 彰 議員



伊達市での、廃棄物は伊達地方衛生処理組合において、処理されていますが、特に、焼却処分場、最終処分場の寿命について環境への負荷、財政の負担などに、不安を感じています。焼却施設は、平成7年に55億円の建

設費により稼働を開始しております。以前のものは、20年程度の使用で寿命を迎えました。焼却灰などを処分する最終処分場についても同様の問題を抱えていると考えられます。今後の廃棄物処理への取り組みについて伺います。



伊達地方衛生処理組合焼却処分場



焼却施設は、平成31年度まで25年間使用する計画になっています。また、最終処分場については、平成24年度まで15年間の埋立処分場として整備されましたが、可燃ごみの分別収集と、資源ごみの分別化により減量化を図った結果、平成28年度まで使用できる状態になっています。

また、焼却施設では、耐熱タイル等の張りかえを毎年行い定期的なメンテナンスをかけて延命化を図り、埋立処分場では、可能な限り埋め立てするものを減らす観点で、広域的にそれぞれの構成団体の中で取り組んでいただいています。

それぞれの施設における使用計画期間後の整備については、平成22年度から施設の寿命到達期間の早い順に施設整備が進められる計画となっています。

伊達市議会のホームページを開設しています。

アドレス
<http://www.city.date.fukushima.jp/>

密室「参与会議」について

堀江 泰幹 議員

Q 新市発足後、市長の招集により旧町元町長との会議が開かれ、重要課題を協議、具現化されてきたというが、中味は一切市民に公開されないでいます。市長の言う情報公開で「市民と情報を共有する」という点では公約に反するもので、是非内容を明らかにしていただきたいと思えます。また、参与会議で話された重要課題で具現化されたものはなにか。合併後の重要課題については、市長初め、職員、議員で真剣に取り組むべきで、「参与会議」の延長の必要性はないと思えますが、市長の見解を伺います。

議会にご報告しているところで、実際の執行に当たっては議会と執行部という関係で運営されるのは当然のことであり、参与会議は、あくまでも参与ですので、意見を拝聴するという性質のものだと思います。また、参与会議の設置期間は、設置条例で平成19年度末と決まっていますので、ご理解を賜りたいと思います。

産業の振興・市場化テスト・職員の適正配置について

菅野與志昭 議員

Q 地域格差の解消を目指すし、市内産業の振興をどのように進め、人口増、税収増へとつなげていくのか。また、市内産業の現状をどのように分析し、どう対応していくのか。

A 参与会議は意思決定機関ではないので会議録は作成していませんし、懇談的にご意見を拝聴していますので、会議の内容の公表というような性質のものではないと考えています。

Q 合併後の重要事項ということで、審議会の動向とか合併特例債の活用等については、

次に市場化テストについてどのように考え、今後市としてどう取り組んでいくのか。新市がスタートし、1年8カ月余が経過しましたが、その現状をしっかりと把握した中で職員の適正配置をどのように進めていくのか伺います。

A 新市建設計画に「活力みなぎるまちづくり」を掲げ、地域の特性を生かした農林業の振興、魅力ある商店街づくり、付加価値の高い産業の形成を図るなど、活力あるまちづくりを進めるため鋭意取り組んでいます。産業の振興は、市のみならず関係団体と連携し、農業・商業・工業の活力ある伊達市の建設というものを図って行きたいと考えています。各種統計等から産業の現状は、依然として後継者や雇用の場の不足、経営基盤の弱体化などの問題を

を抱えていると認識していますので、今後とも、商工会や各種経済団体等と、情報の収集に努めて行きたいと考えています。

市場化テストについては、集中改革プラン等に基づき、庁舎の清掃、夜間警備、一般ごみの収集、水道の検針など数多くの業務について民間委託や指定管理者制度を導入し、業務の効率化を積極的に進めていきます。あらゆる行政の仕事のあり方を見直す機会でも

もあるもので、導入に当たり近隣市町・国・県等々の市場化テスト導入の動向を見定め、今後とも慎重に検討しなければならぬ状況であると認識をしています。

財政厳しい中での

市民サービスについて

中村 正明 議員

Q 伊達市は合併に伴い、総合支所となる旧役場庁舎については情報ネットワークの形成など必要な機能やシステムの整備充実を図るとともに、組織機構の再編に伴う適切な整備改修を進めて来たところですが、そのような状況の中、旧役場庁舎においては空き部屋が目立つようになり、地域の特殊性を考慮

し適切な利活用のあり方を十分協議し新たな有効活用を図れないか。

小中学生の部活動、各スポーツの対外試合等の送迎に市所有のマイクロスバスを利活用することはできないのか。

伊達市財政が厳しい中での市民サービスについて当局の考えを伺います。

伊達市は合併に伴い、総合支所となる旧役場庁舎については情報ネットワークの形成など必要な機能やシステムの整備充実を図るとともに、組織機構の再編に伴う適切な整備改修を進めて来たところですが、そのような状況の中、旧役場庁舎においては空き部屋が目立つようになり、地域の特殊性を考慮

A 旧役場庁舎、現在の総合支所ですが、旧議場等を中心として構造上の特殊性でなかなか利用できない部屋があります。空き部屋の利用について、現在具体的な利活用計画を持つ総合支所はありません。今後、地域の各種活動の中で、各総合支所を有効活用していくことについて検討していきたいと思えます。

小中学生の部活動等での市

マイクロバスの活用については、規程に基づき、県大会、県北大大会等の教育課程に基づく行事に限って使用を許可しています。また、スポーツ少年団の利活用については、団体数が非常に数多くあること、利用時期が重なること、現在貸し出しマイクロバスが1台という状況で、その使用範囲を広げることは困難であるため、ご理解をいただきたいと思えます。

問責決議をうけ、 市長・嘱託職員の判断は

高橋 一由 議員

Q 高額賃金の嘱託職員採用をめぐり、市長への問責決議が可決された。この可決は、言うまでもなく市民全体の声である。この決議を踏まえ、嘱託職員からの意思表示や相談等がなかったか何う。又、「わかりやすい予算書」作成のため適任者として緊急に採用したとしているが、結果は間違いだらけで、議会はこの責任の明確化を指

摘している。市長自らも含め、どのように結論付けるのか何う。議会は調査委員会を設置し、結論を出す予定だが、この状況下で、嘱託職員が職務を遂行するのは難しいと思われるが、市長の見解を何う。

A 採用した嘱託職員とは何も話していません。嘱託職員には関係はありません。

ん。決議についての解釈には違いがあります。採用経過について、議会への説明が不十分だったことは、認識しています。その点については6月議会の閉会時において、決議については真摯に受けとめると申し上げており、そのことに今も変わりはありません。嘱託職員を辞めさせたり、責任をとる決議とは受けとめておりません。わかりやすい予算書は、市民協働推進室が作成したもので、彼だけの責任ではありません。彼が期待どおりの仕事を成し遂げるかはすぐにはわかりませんが、それも市長として、私の責任と考えます。

市政を知るよい機会です 議会を傍聴しましょう

12月定例会は、12月4日開会の予定です。

詳しくは議会事務局へ
(☎ 575-1217)



光センサーを導入している東部広域選果場

桃せん孔細菌病対策と 生活道路の整備について

熊田 昭次 議員

Q 例年になく暖冬と春先の寒風により、桃せん孔細菌病の発生が伊達市を

中心に多く見られ、甚大な被害をもたらしていることはご承知の事と思えます。桃は、

Q 1つ目は、介護1・2におけるヘルパー派遣回数が増加して制限されたり、

ランクの引き下げで介護保険が利用しにくくなっています。在宅介護に対するヘルパーな

新年度予算で 市独自の 介護支援充実を

佐々木英章 議員

A 最初に、ヘルパーの派遣回数増加のための

独自の予算に関しては、介護保険制度の中で、要介護度別にその有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことができるようにサービス量が定まっているので、規定以外の派遣回数増加については現在考えていません。

次に、食事代、部屋代を支援する予算ですが、低所得者を対象に、特定入所者介護サービス費の給付を行い、居住費、食費の補足給付を実施しているの、ご指摘の件については現在考えていません。

どの派遣回数を増やす市独自の施策。2つ目は、施設に入居しやすくするために、食事代や部屋代の支援を行って、市民の高負担を抑える予算。3つ目には地域で支え合える既存の民間建物を利用したミニデイや小規模多機能施設新設に対して、市独自の体制づくり、制度支援づくりをする必要があると考えますが、当局の考えを伺います。

最後の民間建物利用によるミニデイや小規模多機能施設を支援する予算に関しては、当面、独自予算は考えていませんが、空き家等を有効活用するミニデイは、介護予防、健康づくり、高齢者の地域交流を促進する上で検討する必要があると考えています。なお、小規模多機能施設に関しては、福祉空間整備交付金制度もあるので、地域密着形サービスの進め方を考えています。

A せん孔細菌病の発生が予想されたことから、普及及び農協で、薬剤防除の徹底を呼びかけましたが、薬剤の効果がなく蔓延したと聞いています。品質低下を招

き、生食の出荷に大きく影響し、伊達みらい農協の調べで出荷量が、平成18年比較で76%と聞いています。来年に向け、感染枝の伐採、薬剤の防除の徹底、樹勢回復のための肥培管理が重要ですので、普及所、農協など生産者団体等々と対応策を協議していきたいと考えています。

道路整備については、まずまず進行する高齢化社会において、安全で快適な環境づくりという点から、地域づくりの中で最も基本的、社会的基盤整備であると認識しており、市民の要望に答えるため、緊急性、必要性を勘案して、計画的に整備してまいります。

担い手支援・遊休農地解消・農産物販売向上・観光・イベント等にと、伊達市としてのイメージにも強く貢献しているものと感じています。今後の市の対応について伺います。次に、高齢化している地域において、道路の狭隘から車両の進入制限、大雨時における土砂流失、洗掘等、生活道路の管理面で苦慮しています。今後の道路整備の対応について伺います。

要 望 書

議会は、台風9号の被害に対して早急な対応を求め、9月12日に市長に対し要望書を提出しました。

台風9号の被害に関する要望書

この度の台風9号の影響による豪雨は、当市にも甚大な被害をもたらされました。これはかつてない程の数に至っていること、また、去る7月15日の豪雨の影響に苦慮している最中での出来事で、さらに深刻な事態に至っています。

したがって、議会は下記の件について、早急な対応を求めるものです。

記

1. 宅地関連、農地等について早急な対応を可能とするため、市独自の融資制度を設けること。
1. 農林道等、緊急な復旧が必要な箇所の早急な対応をすること。
1. 被害対象住民に対して十分な説明を実施すること。

平成19年9月12日

伊達市議会
議長 滝澤 福吉

伊達市長 仁志田 昇司 様

みなさんからの
請願・陳情

9月定例会で受理した請願・陳情は、請願2件、陳情2件でした。これらは、所管の委員会に付託し審査した結果、次のとおり決まりました。

採 択

請 願

- ・市道1133号線拡幅改良の請願書

請願者 伊達市伏黒

上ヶ戸町内会長 鈴木 益美 外20名

- ・子どもの医療費無料化年齢の引き上げを求める請願書

請願者 新日本婦人の会福島県本部

会長 加藤 和子 外2名

陳 情

- ・市道1011号線の改良拡幅舗装整備に関する陳情書

陳情者 伊達市保原町

市道1011号線改良促進代表 佐藤 庄作 外12名

不採 択

陳 情

- ・希望の森公園の再開発について

陳情者 伊達市梁川町 堀内 守 外9名

取り下げ

請願者から請願内容の再検討を理由に取下申出書が提出され、本会議において取り下げが承認されました。

請 願

- ・霊山登山入口駐車場整備に伴う常設売店並びに休憩所の設置について

請願者 伊達市霊山町

霊山登山出展会会長 高野 金助

議会広報委員会

委員長 八巻 善一
副委員長 吉田 一政
委員 齋藤 和人
委員 清野 公治
委員 佐藤 勲
委員 滝澤 福吉

まもなく冬の風物詩、伊達市特産あんぼ柿のシーズンです。温暖化で栽培管理も大変になっていきますが、1年の締めくくりに大豊作を願うものです。

議 会 の う ご き

福島県市議会議員研修会開催

8月23日福島市ウエディングエルティにおいて、慶応義塾大学総合政策学部教授の草野厚氏による「政治・経済展望～どうなる日本!」と題した講演が行われました。



相馬市議会との交流会開催

10月1日相馬市議会から19名の議員が訪れ、交流会を行いました。保原総合公園亀岡家住宅、だてケーブルテレビを視察研修しました。



県知事に要望書を提出

10月3日、福島県知事に対して「伊達市堂ノ内地区市街化区域編入促進にかかる要望書」を提出しました。あわせて県議会議長、県土木部長にも同様の要望書を提出しました。

編集後記

菊の花も薫る候、本年最後の市議会だよりとなりました。

顧みますと暖冬、6月の長雨、夏の記録的な猛暑、台風4号、9号の集中豪雨と千変万化でした。今度の冬は、雪は・・・。

現在、市と市議会は平成27年までの第一次伊達市総合計画策定に向けて、協議を進めています。市民の安心・安全の地域づくりに十分に論議を尽くして参ります。

伊達市特産あんぼ柿のシーズンです。温暖化で栽培管理も大変になっていきますが、1年の締めくくりに大豊作を願うものです。